

ホームランニュース

<http://www.funabashi-gakudou-baseball.jp>

発行 船橋市野球協会少年学童部



第三四回船橋市青少年大会 少年学童の部

今年度は昨年の東日本大震災の影響で中止となつた総合開会式が、三月二十五日に船橋市民球場で二年ぶりに開催された。今回も液状化の改修工事のため高瀬グラウンドの使用が出来なかつたため豊富球場をメインに行われた。土曜日も大会を行うなどし、ほぼ予定通り日程を消化することができたので両リーグの決勝戦が五月四日船橋市民球場で行われた。

Aリーグ 高郷スターズ 初優勝

Aリーグは、西船ウィングス、シードの習志野台ワンパクス、高郷スターズ、ツインドルフィインズの四強の争いとなり、準決勝で、習志野台ワンパクスが西船ウィングスを四対一で破り、また、高郷スターズがツインドルフィインズを六対五で破り、五月四日に船橋市民球場で決勝戦が行われた。

習志野台ワンパクス

00020000 2
0200000x3

高郷スターズ
試合は二回高郷は二、三塁のチャンスに松井、長部の連続タイムリーで二点を先取。対する習志野台は四回、北村の中前安打でチャンスを広げ、二点を返し同点とした。その後は両チームともにランナーを出すものの、あと一本がでない。

最終回、習志野台は三塁に走者を進め、本塁を狙うが無得点。その裏、高郷は二死三塁から、二番田中の左安打で、サヨナラ勝ちし初優勝を飾つた。



Bリーグは ワンパクスが 優勝

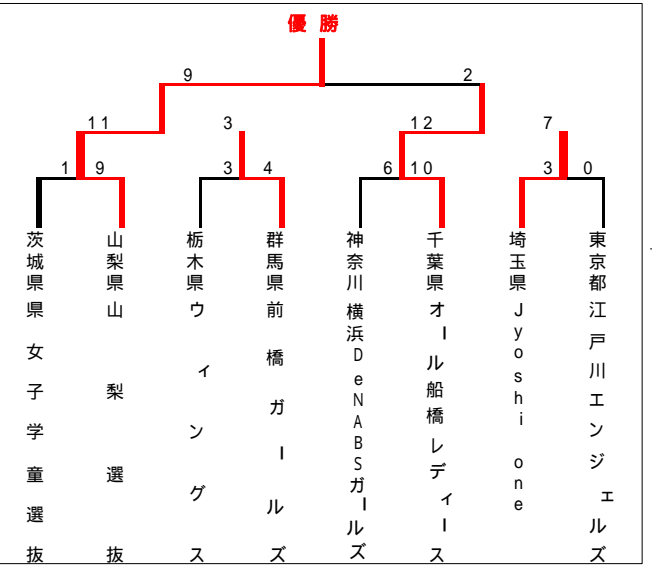
Bリーグは、習志野台ワンパクス、薬台台リトルスター、法典コンドル、西船ウィングスの四強の争いとなり、準決勝で習志野台ワンパクスが薬台台リトルスターを二対〇で破り、また、西船ウィングスが法典コンドルを四対二で破り、習志野台ワンパクス対西船ウィングスの決勝戦となった。

習志野台ワンパクス
2020011 6
0120101 5

西船ウィングス
試合は、初回から二得点を奪い習志野台が主導権をにぎつた。三点を追う西船は三回、木下の左二塁打で二点を返し、流れを引き戻す。すると五回、四番・西口の左中間タイムリーでついに同点に追いついた。しかし習志野台はすぐさま反撃。続く六回、一点を奪つと、七回にも北村の三塁打から加点し接戦を制し五年振り三回目の優勝となった。

Aリーグ優勝した高郷スターズは五月に全日本

NPBCUP第6回 関東女子交流大会



学童千葉県予選に、そして、習志野台ワンパクスが七月に関東学童千葉県大会に出場した。また、高郷スターズ他三チームが八月に行われる千葉県少年野球大会(千葉日報杯)へ出場した。

Bリーグで優勝した習志野台ワンパクスは九月に開催される関東学童軟式野球秋季(新人)大会千葉県予選に、また、薬台台リトルスター、法典コンドル、西船ウィングスと習志野台ワンパクスに準々決勝で敗れた夏見パワーズの四チームが十月開催の東武鉄道杯への出場が決まった。



船橋東警察署長杯

Aリーグは南部支部が二十六連覇

二六回船橋警察署は五月五日に、Aリーグ十六チーム、Bリーグ十四チームの参加により開会式が行われた。

船橋警察署長の始球式により初戦が開始され、好天にも恵まれ、順調に進み六月十日に夏見台近隣公園グラウンドで決勝戦が行われた。

Aリーグは、小栗原ベアーズ、夏見パワーズ、西船ウイングス、夏見台アタックスの四強の争いとなり、準決勝で、夏見パワーズが小栗原ベアーズを十一対六で破り、夏見台アタックスが西船ウイングスを五対二で破り、南部同士の決勝戦となった。

結果は

夏見パワーズ

00100 1

5513x 14

夏見台アタックス

となり、夏見台アタックスが二年ぶり十二回目の優勝を飾った。

BリーグはFTJ初優勝

Bリーグは、夏見パワーズ、夏見台アタックス、FTJ、海神スパローズの四強の争いとなり、準決勝で、夏見台アタックスが夏見パワーズを六対三で破り、FTJが海神スパローズを七対一で破り、Bリーグも南部同士の決勝戦となった。

試合は壮絶な打ち合いとなったが、十二対十と、激戦を制したFTJが初優勝を飾った。

東警察署長杯

第二七回船橋東警察署長杯は、五月五日のこども日に豊富グラウンドにて

開会式を行い、開会式後の第一試合は東警察署長の始球式で始まった。

大会は、天候に恵まれ準々決勝まで順調にすすみ、ベスト四には、さざんかポニーズ、習志野台ワンパクス、薬台台リトルスター、ツィンドルフィンス、三山スワローズが残った。

六月三日に準決勝が行われ、習志野台ワンパクスがさざんかポニーズを七対一で破り、三山スワローズがツィンドルフィンスを五対一で破り、六月十日に決勝戦が行われた。

試合は接戦の上六対五で習志野台ワンパクスが勝利をおさめ、三年ぶり三回目の優勝を飾った。

10月以降の主な大会名

10月	第35回船橋市少年学童野球新人大会
	第37回船橋市少年学童野球秋季大会
	関東学童軟式野球秋季(新人)大会 (日本ハム旗争奪)
	東武鉄道杯少年野球大会
	千葉県少年野球選手権大会 (ロッテ旗争奪)
	5市親善少年野球大会
	千葉県少年野球選手権大会 (中央ろうきん旗争奪)
	友遊ボール大会
11月	東葛親善少年野球秋季大会
	支部対抗戦
	女子オールスター 地域対抗6年生選抜大会

少年野球教室



第四五回となる平成二四年度の少年少女交歓大会は五月十三日に船橋運動公園で行われた。

この交歓会に合わせて開催してきた野球教室が、昨年は諸般の事情で中止となったが、今年度は、公益社団法人全国野球振興会の主催により、新たに「少年少女野球教室」を船橋市民球場で開催した。

講師には、元巨人のエース城之内投手、船橋法典高校出身の元日ハム松浦投手等大勢の元プロ野球選手を迎え、バッテリー、内野、外野、打撃の四部門に分かれ、個別に、具



体的に注意を受けるなどし、「野球は基本が大事、練習も基本をしっかりとやること」と熱心な指導を受けた。最後に記念撮影し野球教室を終了した。



第三五回東葛親善少年野球大会(春季)



第三五回東葛親善少年野球大会(春季)は九市十チームが参加し流山市で行われた。船橋代表の藤上ディアーズは、準決勝でジュニアサンデーズ(浦安)に二対七で敗れたが第三位に入賞した。優勝は浦安のジュニアサンデーズであった。



第3位表彰を受けた藤上ディアーズ

NPBCUP 第六回関東女子交流大会

第6回NPBCUP女子交流選抜学童軟式野球大会は(社)日本野球機構(株)ベースボール・マガジン社、関東軟式野球連盟の主催により、九月一日に埼玉県大宮公園球場、さいたま市営大宮球場で、茨城県、山梨県、

栃木県、群馬県、神奈川県、千葉県、埼玉県、東京都の一都七県の選抜チームが参加し行われた。千葉県代表オール船橋レディスは初戦、神奈川県選抜横浜DONAベイスターズガールズに十対六で勝ち、二回戦も埼玉県



準優勝したオール船橋レディース

選抜 JOSH ONE に十二対七で勝った。決勝戦は九月一七日に西武ドームで山梨県の山梨選抜と対戦惜しくも二対九で敗れたが初出場準優勝を飾った。

第六回関東女子交流大会所感

県野球協会から出場チーム推薦依頼を受けた千葉県野球少年野球連盟の推薦を受け、この度「オール船橋レディース」が標記大会に出場することとなった。第五回、第六回と八千代選抜が出場しており、なぜ八千代ばかりを推薦するのかと思っていたが、「長年の苦労が報われたな」と嬉しかった。また、学童部からは

大会日程考慮、常任理事会で遠征費用のカンパを呼び掛け、選抜ユニホームの貸与、大会への役員派遣等全面協力をいただいた。そして大沢会長、各チーム代表、監督等の皆さまから「頑張ってくたさい！」と激励の言葉を貰った。その結果「準優勝」の荣誉に輝いたのである。

いまや少子化、過疎化、サッカーブームによって少年野球界は大ピンチである。県の「要覧」によると登録選手数が昨年度より千五百名も激減している。あとは女子選手の手勧誘しか道はない。さて、それはさておき、この大会の参加賞「洗濯石鹸」は何を意味するのだろうか。

オール船橋レディース 責任者 荒井 義一

オール船橋レディースメンバー

監督	池内 正明	薬丸台リトルスター	
ヘッドコーチ	鈴木 純忠	田喜野井ターキーズ	
コーチ	栗塚 俊一	ツインドルフィンズ	
番号	学年	選手	チーム
1	6年	前田 依里奈	高郷スターズ
2	6年	横山 夕	スリーアローズ
3	6年	橋本 和音	ツインドルフィンズ
4	6年	小泉 里彩	塚田クラブ
5	6年	長谷川 宙美	小室ライオンズ
6	6年	西村 優希	緑台イーグルパワーズ
7	6年	堀口 佳夏	習志野サンデーズ
8	6年	崎山 風夏	ホワイトビーストロング
9	6年	三上 実穂	大穴ベガサス
10	6年	西岡 英里	さざんかボニーズ
11	5年	安川 しおり	坪井パンテッツ
12	5年	荻原 百愛	西船ウイングス
13	5年	高橋 玲奈	二和タイガース
14	5年	関口 萌	二和タイガース
15	5年	池原 葵莉	前原サンライズ
16	5年	池原 千智	前原サンライズ
17	5年	栗林 風羽	前原サンライズ

チームだより

初出場 藤上ティアイズ 代表 塚本権雄

平成二二年八月にチーム合併してから丸二年が経過しました。合併当初は若干のわだかまりもありましたがチーム一丸となつて、ある目的に向かって日々精進を重ねて来ました。現Aチームは昨年春の大会(Bチームの時)に準優勝をしており順調に成果を上げつつありました。今年の春の大会に優勝チームと準々決勝でぶつかり惜しくも敗れました。

実はある目標とは県大会に出場することだったのです。準々決勝で敗退したものの幸運がめぐつて来ました。他チームの事情により県大会の出場権を得ることができたのです。旧藤上、牡鹿台ティアイズもチーム結成三五年以上でしたが県大会には一度も出場したことが無かつたのです。合併後の二年間は目標に向かっ

て選手、監督、コーチ、家族等のみなみならぬ努力がありました。県大会開会式六四チームの行進は壮観でした。一回戦で敗退しましたが子供達には素晴らしい経験になつたと思います。

現在、我がチームの選手は七七名、コーチスタッフは五〇名を有しています。初出場を果たしたわけですから、今後は複数回の出場を重ねて県大会で結果を出すように、チーム全体で頑張ります。大会の出場に関しご協力をいただいた方々に感謝致します。

